

佐賀・行幸啓に3500人が提灯で奉迎



令和6年
10月16日
第58号
発行
内外政治
研究G
代表 宮田修一

38年前には昭和天皇奉迎の最後の「提灯行列」



国民スポーツ大会で、笑顔で拍手を送られる天皇后陛下

天皇皇后両陛下は、「国民スポーツ大会」（国民体育大会が名称変更）の開会式などに出席されるため、10月5日から1泊2日の日程で佐賀県を行幸啓になりました。5日夜には、佐賀市内で奉迎の提灯行列があり、両陛下が宿泊されたホテルとお堀を隔てた県立佐賀西高校グラウンドには3500人が提灯や日の丸の小旗を手

に集合。「万歳、万歳」の声が続く中、両陛下は午後7時過ぎにホテルの窓に姿を見せられ、提灯を振ってお応えになりました。両陛下からは侍従を通じて「皆さまの万歳の声もよく聞こえ、嬉しく思いました」などとお言葉がありました。

佐賀県では昭和62年（1987）5月に昭和天皇が全国植樹祭で行幸された際、昭和26年の関西ご巡幸を最後に途絶えていた提灯行列の奉迎が、今回と同じホテルで行われました。当時、大学生として奉迎に参加したという同市内の男性は「昭和天皇はその後に手術をされ、最後の提灯での奉迎となりました。今上陛下が同じ場所提灯でお応えになるお姿に感極まりました」と話していました。



ホテルにお泊まりの両陛下に提灯と国旗を振って送迎する人々

今月12日、日本記者クラブで党首討論会があり、「選択的夫婦別姓」もテーマにのびりました。石破首相は、代表質問の記者（毎日）が「総裁選では『やらない理由はな』とまで言った。何十年も議論を続ける気か」と迫ったのに対し、「私たちは民主的な党だから反対があっても押し切ることはしない」「党議拘束を外すことはあまり賛成しない」と述べました。

総裁選で、各種の世論調査の結果を無視した小泉進次郎氏が「決着を付ける」と主張して急激に失速したことを考えれば、当然のことですが、持

衆院選

安倍元首相の遺志継ぐ候補に支援を！

27日投開票の衆院選では、自民党の旧安倍派を中心に、パーティー収入の「不記載」候補が重なる「非公認」とされたケースもあり、厳しい戦いを余儀なくされています。一部を除いて党内左派の閣僚で占められた内閣

ですが、安倍元首相への「国賊」発言で1年間の党員資格停止処分を受けながらも反省の言葉がない村上誠一郎総務大臣や、個々の資金パーティーに絡む不記載で批判された人物がいることを考えれば、「刑事裁判の『一事不再理』を引き出すまで

もなく恣意的な「再処分」であり、旧安倍派潰しの意図があることは明白です。「（非公認などが）どんなに辛いことか」と言う石破総裁（首相）の言葉が白々しく感じられます。

（宮田修一）

別姓問題で石破首相「反対を押し切ることにしない」

今月12日、日本記者クラブで党首討論会があり、「選択的夫婦別姓」もテーマにのびりました。石破首相は、代表質問の記者（毎日）が「総裁選では『やらない理由はな』とまで言った。何十年も議論を続ける気か」と迫ったのに対し、「私たちは民主的な党だから反対があっても押し切ることはしない」「党議拘束を外すことはあまり賛成しない」と述べました。

維新・馬場代表

「通称使用法制化を図る」

一方、この問題では、「維新」の主張は必ずしも明確ではありませんでしたが、馬場伸行代表は「何を目指しているのか」と訊かれ、「通称の法制化を図っていくということです」と明言しました。

党首討論会での選択的夫婦別姓に関する質疑応答

